

赤潮調査事業（毒化モニタリング調査）※<sup>1</sup>竹内照文・小久保友義・吉本 洋※<sup>2</sup>

## 目 的

県下の主要貝類生産水域において貝類の毒化状況と毒化原因プランクトンである *Alexandrium* spp.、*Dinophysis fortii* や *D. acuminata* の出現状況を調査し、貝毒監視体制の確立を図る。詳細は「平成2年度赤潮防止対策事業報告書（毒化モニタリング調査）」に報告されている。

## 方 法

和歌浦湾と田辺湾でアサリ、芳養湾と串本浅海漁場でヒオウギガイを対象にして麻ひ性貝毒（PSP）を49回、下痢性貝毒（DSP）を5回検査した。また、同時に *Alexandrium catenella* や *D. fortii* と *D. acuminata* の出現状況について調査した。

## 結 果

1. 和歌浦湾のアサリや串本浅海漁場のヒオウギガイは全く毒化することがなかった。また、芳養湾ではヒオウギガイに弱い毒化（PSP）が認められたが規制値を超えることはなかった。
2. 和歌浦湾や串本浅海漁場では *A. catenella* が  $10^1 \text{ cells} \cdot \text{l}^{-1}$  の細胞密度で出現していたが、芳養湾では全く出現することがなかった。
3. 田辺湾では *A. catenella* が4月中旬から増殖し始め、5月上旬のピーク時には  $4.0 \times 10^4 \text{ cells} \cdot \text{l}^{-1}$  になった。ピーク後の減少は緩やかで6月中旬まで  $10^3 \text{ cells} \cdot \text{l}^{-1}$  以上の細胞密度で出現していた。ヒオウギガイのPSPは *A. catenella* の増殖に伴って上昇し始め、4月下旬には規制値を超え、更に、5月中旬には中腸腺値  $95.4 \text{ MU/g}$  でピークを示した。ピーク後は急速に下降し、5月下旬からは規制値以下になった。一方、アサリは全く毒化することがなかった。  
*D. fortii* と *D. acuminata* は4月と5月に  $10^3 \text{ cells} \cdot \text{l}^{-1}$  を超えてコンスタントに出現していたが、アサリのDSPはすべてNDであった。

---

※1 赤潮調査事業費による。

※2 水産課